

IN THE SUMMER

涼を求めろ

澄んだ水の流れ、木の枝に隠されているかのような緑の深い山道。自然のままに生活を営む生き物たち。夜になれば、日常の生活にうずもれて忘れてしまっていた星空を思い出すことができます。

ごみごみした下界を避け、夏なお冷涼な別天地、ここ黒滝を訪れてみませんか。市の中心部から車で約40～50分北部の山間地へ入るだけでそこはもう大自然の中。

小さい頃は、みんな釣りをしたり、川で泳いだりしていました。今でも手つかずの自然が残っています。この自然をそのままに、ここを活性化できればいいと思います」と黒滝にお住まいの佐竹さん。

日常のわずらわしさから離脱し、童心にかえって遊ぶのには絶好の場。昔遊んだ田舎のことを思い出しながら川遊びをしたり、自分たちで釣った魚を焼いて食べたり、日頃味わえない自然を満喫してみるのはいかがでしょうか。

黒滝にはキャンプ場もあるし、近頃のアウトドアブームも手伝ってか別荘を建てる人も。

既成の遊びではなく、自然の中で自分たちで見つけ、自分たちで作る楽しさを味わってみてください。



佐竹正寛さん 黒滝へ、マナを守って楽しんでください。

スタミナ源 うなぎ

夏を乗りきる

キラキラ太陽が照りつける夏。連日のように続く真夏日のために体がだるく、食欲不振の方も多いのではないでしょうか。

そこで、これからの季節にクローズアップされるのが土用の丑の日にスタミナ食品として食べられるうなぎ。人は随分古くからうなぎを食べていたようで、現在のように蒲焼きをご飯の上に乗せる食べ方が一般に広まったのは江戸時代からと言われています。

うなぎには21%の脂肪が含まれますが、成人病を予防する栄養も含まれていますので、適量を食べればスタミナは抜群。また冬に食べれば、冬に不足しがちなビタミンAを取ることができてよいとのこと。

暑い夏を元気に乗り切るため、皆さんうなぎを召し上がってみてはいかがでしょうか。



出荷のための選別作業



岡本龍雄さん

養鰻業を始めて15～6年になる岡本龍雄さん(田村)。暑いときで40℃以上にもなるハウスの中で汗びっしょりになりながら、今うなぎの出荷で大忙し。

「南国市では養鰻農家は最盛期の3分の1くらいに減りましたが、産業発展のために頑張っています。しらすを仕入れてから餌付けするまでが苦勞します。一番こわいのは突発的な停電。酸素を送る機械が一時間停まっただけで全滅してしまうので、特にその点には気を遣っています。安全でいい魚を生産していきますので皆さん、安心して食べてください」

今月の特集



OF 1992

それぞれの夏～

この夏いろいろな場所で、いろいろなことをしている人たちがいます。

夏に向け、忙しく働いている養鰻業を営む人。高校最後の夏を野球にける高校球児たち。厳しい暑さの中、川辺で鮎釣りにいそしむ人々。土佐路を彩る「よさこい祭り」を楽しむ人。遠い国からやってきて、異国の地で夏を過ごす海外留学生など。

今、それぞれの夏がゆっくと流れていきます。



市民の皆さんが参加できる南国市の大会「土佐のまほろば祭り」が八月二十九日に開催されます。今年市内の青年団体の代表者等による「土佐のまほろば祭り」実行委員会の発案で、市民の皆さんが参加できる南国市の大会「土佐のまほろば祭り」が八月二十九日に開催されます。今年市内の青年団体の代表者等による「土佐のまほろば祭り」実行委員会の発案で、市民の皆さんが参加できる南国市の大会「土佐のまほろば祭り」が八月二十九日に開催されます。

土佐のまほろば祭り

～風と光と音のシンフォニー～

8月29日(土) 午後4時～9時

北部スポーツレクリエーション施設で開催



溝淵文生さん

(土佐のまほろば祭り実行委員長)

自然との調和、そして世代の調和がテーマ。南国市独自の祭りとしての基礎づくりをし、若い人からお年寄りまでみんなで楽しめる祭りしていきたいです。

アトラクションのご案内

- 4:00 開会セレモニー
- 4:40 ハンド演奏
- 5:40 ゲーム ～相撲アラカルト～
- 6:50 踊り子隊礼讃
- 8:00 音と光のミニ・コンサート
夜空に舞うレーザー光線と音響効果による飛火元の世界
- 8:40 打ち上げ花火
- 9:00 閉会のあいさつ

まほろば祭りキャラクターを募集します(詳しくは、今後の広報で)

募集期間 平成4年12月末日まで(送印有効)
申込受付先 南国市商工水産課(〒783 南国市大浦甲2301 番市役所内線181)

夏本番! 川の釣師たち



末政 君人 さん

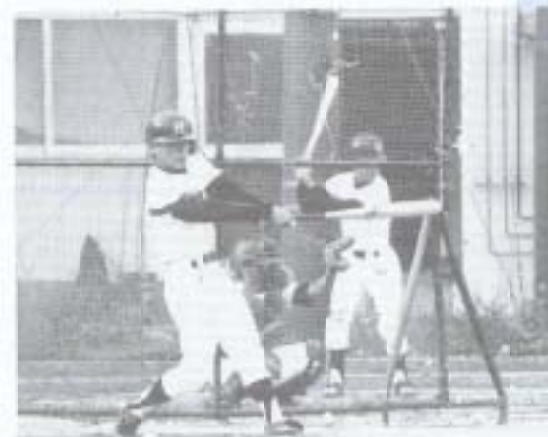


西川 洋誠 さん



結シーズンの午後は家業そつちのけ
持っている毛バリも五百種以上、数千
本。それだけで一財産。しかも、その
毛バリの一本一本の違いがわかること
で、相当の達人です。
「予想した毛バリがズバリ当たった
時が、この釣りの楽しみ。釣場はほと
んどが顔なじみで、世間話に話がはず
みます。百二十四釣ったことも」と、
末政さんも西川さんの顔なじみで定
年退職後は釣りびりたりの毎日。「仕事
の一端を引いた方が多く、人生経験も
豊富で、そうした人たちとの交流が楽
しみで川通いに、十年ほど前には、足
もとが黒くなるほど粘がいましたが、
最近ではめっきり減りました。川が汚れ
てきているのを肌で感じます。しかし、
小鳥のさえずりを聞きながらのんびり
釣れるのが魅力です」
自然とのふれあい、人との語らいに
ここ物部川を舞台にしたひと夏が過ぎ
ていきます。

ギラギラと照りつける川面に糸
をたらし、ひと夏を川通いに明け
暮れる結釣りのフアンたち。
大塚の西川洋誠さんと立田の末
政君人さんもその一人。物部川の
移り変わりと、結釣りの楽しさを
聞いてみました。
西川さんは喫茶店のマスター。
午前中、店には毛バリ釣りの仲間
たちが集まり、釣り談義に華が咲
きます。



夏の風物詩となった全国高校野球選
手権大会、夏の甲子園。高校球児の憧
れの場である甲子園にたどりつけるの
は一握りの者だけ。

膝原にある高知東工業高校のグラウ
ンドから毎日のように野球部員たちの
掛け声や、鋭い打球音が響き渡ってき
ます。

今でこそ部員数も増え、試合にでて
勝てるようになりましたが、5年前に
山本監督が就任する前のコーチ時代は
部員数が足りず、ひどいときには部員
が三人しかいないという時期もあった
そうです。試合もできず、練習もまま
ならない状態でしたが、野球が好きだ
った彼らは熱心に練習を続けました。

「今のチームがあるのは当時の監督と
選手たちが途中で投げ出さなかったお
かげです」と山本監督。

三年生にとっては最後の夏。自然と
気合も入ってくることでしょう。そんな
三年生の一人に、練習はつらくない
か、やめたいと思ったことはないか、
と聞いてみると、「毎日やめたいと思
うてますよ。けんどもみんなあ自然に体
がグラウンドに向かいます。野球バカ
ながですよ」と若者らしい気持ちの良
い答えが返ってきました。

彼らにはできるだけ長く、力いっば
い夏を過ごしてほしいものです。



白球に夢をのせて

アツイネ! 土佐の夏

ガブリエラ・デル・バジェさん



私たちが普段なにげなく過ごし、感じ
ている南国の夏。外国から来た人たちは
この南国の夏をどういうふうに感じてい
るのでしょうか。

今春から高知大学農学部でニシ
キゴイの研究に励んでいるガブ
リエラ・デル・バジェさんはメキシ
コ市出身。1990年に来日し、
大阪の大学で日本語を学んだ後、
この南国市へ。

「高知の夏はとても暑いですが、
それにコイはハウスの中で育てま
すから、大変蒸し暑く、毎日汗びっしょ
り。私の住んでいたメキシコ市は涼しい
ですよ。27〜35度くらいにしか温度が上
がりませんから」と流ちょうな日本語で
答えてくれます。

祭りの雰囲気については「高知のよさ
こい祭りを見ました。踊っている人はす
ごく熱狂的だったけど、観客は見ている
だけで参加できないでしょう。メキシコ
のカーニバルは市民全体が祭りに参加で
きて、みんなが踊りまくって、すごく熱
狂的ですよ」とのこと。

「メキシコにも日本のような四季があ
るので、日本はとても親しみ深く、好き
です」とすてきな笑顔で語ってくれまし
た。

8月には他の留学生たちと物部川にキ
ャンプへいく予定だそうで、高知の夏を
楽しく過ごしていっちゃいました。



写真と本文は関係ありません

土佐の夏。"よさこい"の夏。情熱の
国、南国土佐にまた"まつり"の季節がや
ってきました。

色とりどりのファッションブルな衣装を身
にまとい、正調よさこい節から、ロック調や
サンバ調にアレンジされたものまで、強烈な
リズムに合わせて舞う踊り子隊。飛び散る汗
を光らせながら、ついたり、はなれたり、自
らのエネルギーを見せつけるかのように躍動
します。

そんな踊り子隊の中に松木千夏さ
んの姿があります。「踊っていると
きは暑いし、しんどいけど、踊り終
わったあとの気分、爽快ですねえ。
また踊りたくなりますよ」そう語っ
てくれた松木さん。数年前に踊って
以来、機会に恵まれず参加できな
かったのですが、今年は踊ることに。

「他の人が踊っているのをテレビなんかで
見ていると楽しそうで、踊りたくてしょうが
なくなります。みんなでバカになれるという
か、とにかくエネルギーがすごいですね。み
んながありったけのエネルギーを発散してい
ます。それが気持ちいいです」と"よさこい"
の魅力を語ってくれました

今年もあでやかなはっぴの華が土佐路の夏
を彩ります。



松木千夏さん
(浜田)



写真と本文は関係ありません

真夏の華